

17. 新潟県 (Niigata Pref.)

作成者: 島田久隆¹⁾; 協力者: 樋熊 清治・櫻井 精・山屋 茂人

作成日付: 2002年12月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
EX	ウ	-	ウラジロミドリシジミ	-	-	三国街道(二居・火打峠)(湯沢町)	1950年代以降におこなわれた、三国街道(国道17号)の改良整備などにより衰退した	道路整備による食樹カシワの伐採が、減少の要因と考えられる	樋熊(2002)越佐昆虫同好会会報[以下「越昆」と略](87)p.9-10, p.58. は過去の採集データを含め、詳しく報告している。新潟県(2001)レッドデータブックにいがたp.137. は、未確認ながら県北部のカシワ林には生息しているという情報を報告した
EN	シ, タ, テ	-	ヒメギフチョウ	小滝・平岩・大所(糸魚川市)	葛葉峠・蒲原温泉(糸魚川市)	斑尾山北麓(妙高村), 乙見山峠(妙高高原町)	糸魚川市と長野県との県境付近は、ギフチョウとの混生地として著名で、毎年採集者が訪れ、多くの成虫や卵が採集されている。1990年代以降、新潟県内の生息地では個体数が激減した	糸魚川市の産地では、ギフチョウとの雑種を求めて、卵の大量採集による採集圧力や各種開発などによる。斑尾山北麓の産地では、大規模な開発の影響により絶滅したと考えられる	近年、糸魚川市小滝付近での採集報告が数編ある。石川(1991)蝶研フィールド[以下「蝶研」と略](65)p.34. 山本・牛木・古沢(1993)続・新潟のすぐれた自然 p.34-36. 西口(1994)蝶研。(101)p.17. 今後の動向が注目される。葛葉峠・蒲原温泉の本種は、新潟県の文化財(天然記念物)に指定されている
EN	シ, ソ, ッ	-	ヤマキチョウ	-	池の平・笹ヶ峰(妙高高原町)	-	古く1939年に「池の平方面にて少なからず」との報告があり、その後は同地で1965年, 1969年, 1974年の採集記録が見られるだけである。もともと偶産的な移入種とも考えられる	不明	妙高高原町の記録は、樋熊(1998)越昆(79)p.8, p.36. に過去の採集データを含め、詳しく報告されている
EN	ク, シ, タ, ヌ	-	クモマツマキチョウ	燕温泉惣滝とその周辺地域(妙高村), 早川上流域・海川流域・小滝川流域・大所川源流域(糸魚川市)	笹ヶ峰[真川流域](妙高高原町), 小滝・平岩・葛葉峠・蒲原温泉[姫川流域](糸魚川市)	関～燕温泉(妙高村), 大野～根知[姫川流域](糸魚川市)	1940年代から1950年代にかけて姫川流域では多くの個体が採集された。1970年代に入り国道の道路改良工事が完成に近づいた頃は個体数が激減した。妙高山塊で最初に発見された関～燕温泉の間は、1940年から1960年の間は得られたが、その後は減少し現在は燕温泉の奥の谷で採集されている	姫川流域では、国道の改修工事の際食草が自生していた崖や斜面が削られ、発生量が激減し、現在ではほとんど見られなくなった。国立公園特別保護地区や新潟県天然記念物(文化財)に指定されている地域での、収集家による密猟も見逃せない	野平(1949)越後山岳第参号p.37-41. によれば、姫川流域の最も下流における本種の生息地は、大野～根知間である。姫川流域[小滝大正橋から国境橋までの間、姫川左岸幅1kmの区間]の本種は、新潟県の文化財(天然記念物)に指定されている
EN	シ, ソ, ッ	-	ヒメシロチョウ	-	関川・関川発電所付近(妙高高原町)	赤倉・池の平・杉野沢(妙高高原町)	1960～1970年代前半はかなりの個体数が採集されており、1970年代後半から急激な減少傾向が見られ、最後の採集記録は1990年である	本種は飛翔力も弱く発生地も狭い場合が多い。生息地において農薬の散布や宅地造成など環境の悪化、食草の減少、などによると思われる	妙高高原町の記録は、樋熊(1998)越昆(79)p.14, p.36. に過去の採集データを含め、詳しく報告されている
EN	ソ, ツ	-	ウラジャノメ	-	-	三国峠(三国トンネル入口付近)(湯沢町), 池の平(妙高高原町)	湯沢町三国峠付近で1950年代に2例の採集記録がある。妙高高原町では池の平で1980年代に僅かの個体が得られたのみ	確認記録が非常に少ないため、減少した原因の推定は難しいが、妙高高原町では、各種開発による環境の悪化が原因と思われる	湯沢町では、樋熊(2002)越昆(87)p.12-13, p.87. により絶滅種と推定されている。妙高山麓の本種も、樋熊(1998)越昆(79)p.12, p.67. により絶滅種と推定されている
EN	ソ, ツ	-	クロヒカゲモドキ	-	-	三国・三国街道(湯沢町), 関見峠(妙高村), 田口～赤倉・赤倉温泉(妙高高原町)	湯沢町三国地方の本種は1940年代に2例の採集記録が僅かにあるのみ。妙高山麓の確実な採集データは1934年の1例で、その後、周辺地域で目撃記録があるのみ。1966年以降は目撃記録もない	比較的古い記録が多く採集例も少ないことから、減少した原因の推定は難しい。本種の好む明るい林や疎林が、放置により荒廃したこと、また各種開発により生息地が失われたことが要因と思われる	湯沢町では、樋熊(2002)越昆(87)p.12, p.86. により絶滅種と推定されている。妙高山麓では、樋熊(1998)越昆(79)p.12, p.66. により絶滅種と推定されている
EN	ソ, ツ	-	キマダラモドキ	-	池の平・笹ヶ峰・蔵々(妙高高原町)	-	新潟県では妙高高原町のみから知られ、得られた個体数は多くないが、確実な採集データは1960年後半より1970年代にある。1983年に採集されたものが最後となっている	確認記録が少ないことから原因の推定は難しい。本種の好む疎林などの生息環境が、放置により荒廃したこと、また各種開発により生息地が失われたことが原因と思われる	妙高山麓の記録は、樋熊(1998)越昆(79)p.17, p.65. に詳しい
EN	ソ, ツ	-	ヒョウモンチョウ	-	-	元橋・浅貝・三国峠(湯沢町)	近似種コヒョウモンと混同している同定標本(報告)も多い。1970年代までは湯沢町で確実な報告が見られる	生息地が植生遷移により、生息に適した草原でなくなり減少したと思われる。また、スキ・場などの開発も一因であろう	湯沢町では、樋熊(2002)越昆(87)p.11, p.72-73. によれば、絶滅種と推定されている。妙高山麓の記録は、樋熊(1998)越昆(79)p.9-10. によれば、過去に報告されたものが真に本種か疑わしく、妙高山周辺の確実な個体は未見であるという
EN	ソ, ツ	-	コヒョウモンモドキ	-	赤倉・池の平・笹ヶ峰・笹ヶ峰牧場(妙高高原町)	三国・三国山(湯沢町)	妙高山麓では1970年代まで多産していたが、1980年代に入り急激に減少した。三国地方(湯沢町)では、昔から採集記録が少ないが、1970年代までは報告が見られる。	生息地が植生遷移により、生息に適した草原でなくなり減少した。妙高高原町では、スキ・場の開発も一因と考えられる	妙高山麓の記録は、樋熊(1998)越昆(79)p.16, p.60. に詳しい。湯沢町では、樋熊(2002)越昆(87)p.11, p.77. により絶滅種と推定された
EN	ソ, ツ	-	オオウラギンヒョウモン	-	-	珠川(十日町市), 倉俣(中里村), 大割野・外丸・秋成・中子・反里口(津南町), 清水(塩沢町), 杉野沢橋付近・笹ヶ峰牧場(妙高高原町)	過去の記録では、1950～1960年代には比較的よく採集されていた。1969～1971年頃塩沢町で得られた個体が新潟県の最終記録であるという	詳細は不明であるが、農業形態の変化で、採草(草刈り)が行われなくなり、シバ草原からスキ草原への遷移が大きな要因と思われる	新潟県内における近年の採集報告はまったく無い。過去に記録された産地はすべて「絶滅したと考えられる産地」に含まれた。今後県内では、比較的産産していた津南町とその周辺地域に再発見の期待がかかる。新潟県における最終記録は、樋熊(2001)越昆(82)p.50. の報告
EN	ソ, ツ	-	オオイチモンジ	-	-	妙高山麓[杉野沢から池の平に至る中間地点](妙高高原町)	採集記録が1例だけで不明な点が多い。長野県などの発生地から飛来した偶産個体とも思われる	不明	妙高山麓の記録は、樋熊・丸山(1966)頸南[新潟県文化財年報第五]p.114. による。村上(2001)蝶研(176)p.25. により雪倉岳(糸魚川市)で目撃記録が報告された。山頂での目撃であるので、飛来した偶産個体とも思われるが、新潟県側での生息地の確認が期待される
EN	シ, ソ, ッ, ナ	-	チョウセンアカシジミ	-	岩沢(朝日村), 金丸(関川村), 麻布(三条市)	-	1975年から1977年にかけて岩船郡関川村の荒川沿いの生息地が、県外の同好者により発見・報告された。成虫の採集報告は少なく、食樹トネリコ類からの採卵や幼虫採集により分布地が確認されている。しかし、集中的に多くの卵や幼虫が採取される傾向にある	収集家による卵の採取が頻繁におこなわれた結果、短期間に個体数が減少したのと思われる。関川村の生息地では、発生木の一部が伐採され、環境が悪化した。三条市は、放蝶によるものである	梅津・内藤・八島(1978)らふぁえりす(4)p.126. 猪又(1978)越昆(47)p.54. らにより、岩船郡関川村の荒川沿いの生息地が発見された。三条市の現地報告は斎藤(1995)蝶研(115)p.13-18. による

17. 新潟県 (Niigata Pref.)

作成者: 島田久隆¹⁾; 協力者: 樋熊 清治・櫻井 精・山屋 茂人

作成日付: 2002年12月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
EN	タ,テ	-	クロシジミ	鋸山(長岡市)	十二平(小千谷市), 当間山(十日町市), 上鍛池(松之山町), 池の平(妙高高原町)	-	池の平(妙高高原町)では1940年代にはかなり多産していたが, 1960~1970年代には減少傾向となり, 1979年の記録が最後の報告になっている。他の産地は情報不足	生息地が宅地造成, 各種開発, 里山での新炭林の放置が, 生息環境を悪化させたと考えられる	妙高山麓での衰退の経過については, 樋熊(1998)越昆(79)p.15, p.47. にまとめられている
EN	シ,ソ,ツ	-	ゴマシジミ	-	池の平(妙高高原町), 朝日岳カモシカ平・白高地沢(糸魚川市)	浅貝(湯沢町)	湯沢町では1970年までは少数ながら採集記録があったが, それ以降得られた情報はない。妙高高原町では1970年代後半まで多数の個体が得られていた。糸魚川市地域については, 特別保護地区でもあり情報不足	湯沢町及び妙高高原町の生息地は, 道路改修や宅地開発などにより植生の遷移が進み, 食草そのものが衰退した	妙高高原町の記録は, 樋熊(1998)越昆(79)p.14-15, p.46-47. が, 湯沢町の記録は, 樋熊(2002)越昆(87)p.11, p.62. にそれぞれまとめられており, 過去の採集データを含め詳しく報告されている。糸魚川市の記録は, 藤岡(1981)改訂増補日本産蝶類大図鑑資料編p.72. による
EN	ク,シ	-	クロツバメシジミ	-	姫川流域・小滝川流域(糸魚川市)	-	姫川流域では, 1953年に採取されたツメレンゲに穿入していた終齢幼虫が発見され, 1 が羽化したのが初記録, 最初の正確な採集地点が不明であったことや, 国道改修工事のため長い間採集報告がなかったが, 1975年に同流域で再発見された	度重なる道路改修工事により食草ツメレンゲの生息地が奪われ, 生息環境が悪化し, 衰退したと思われる	姫川峡谷の本種については, 樋熊(1976)新潟県生物教育研究会誌(11)p.23-28. の報告に詳しい。近年, 隣接する小滝川流域では, 伊藤(1999)越昆(81)p.76. が生息を確認した
EN	ソ,ツ,ナ	-	オオルリシジミ	-	陸上自衛隊開山演習場(中郷村・妙高村)	松ヶ峰(中郷村), 関山・片貝川右岸・大洞原(妙高村), 赤倉・池の平・関川(妙高高原町)	新潟県では1947年に妙高高原町関川橋付近で採集されて以来, 妙高山麓一帯では1980年代までは少数ながら採集されていた。その後, 陸上自衛隊開山演習場の産地が同好者の間に知られたが, 1992年と1993年に少数の個体が採集されたのを最後とする。演習場ではその後収集家などが採集したとの噂を聞くが, 確実な情報はない	植物群落の遷移に伴う, 草地環境の変化が最も大きく影響していると思われる。宅地化などの人為的な要因, 収集家による採集圧力なども見逃せない	妙高山麓の記録は, 樋熊(1998)越昆(79)p.15, p.49. にまとめられている。陸上自衛隊開山演習場における文献上での最後の記録は, 蛭川(1994)昆虫と自然29(6)p.4-8. の報告と思われる。蛭川・島田(1998)やどり(175)p.9. では, 1994年から1997年の4年間, まったく本種を確認していないと報告した
EN	ソ,ツ	-	チャマダラセセリ	-	小滝(糸魚川市)	池の平(妙高高原町)	県内で記録されている妙高高原町と糸魚川市では, すでに50年以上にわたり採集報告がない	各種開発が行われており, その影響により生息数が減少したものと考えられる	樋熊(1998)越昆(79)p.8, p.30. の報告では, 妙高高原町産を絶滅推定種とした
EN	ソ,ツ	-	アカセセリ	笹ヶ峰(妙高高原町)	池の平(妙高高原町), 大沼原(中郷村)	三国街道(湯沢町)	1970年代以降の採集記録はきわめて少ないが, 近年では1997年, 2001年, 2002年に, 妙高高原町笹ヶ峰で少数の個体が採集されている	生息地の草地が地域開発などにより環境が悪化し, 減少したと思われる	近年, 妙高高原町の採集記録は, 荻野(1998)越昆(78)p.32. 及び太刀川(1998)越昆(79)p.70. に報告がある。樋熊(2002)越昆(87)p.8. は, 三国街道(湯沢町)産を絶滅種とした
VU	タ,テ	-	タカネヒカゲ	雪倉岳・鉢ヶ岳・三国境~小蓮華山(糸魚川市)	-	朝日岳(糸魚川市)	朝日岳では1953年に成虫が採集された記録がある。近年, 登山者の著しい増加により生息環境が悪化している	稜線の登山路沿いに生息地が多く, 登山者の踏み込み, ケルンの石積みが生息環境の悪化になっている	朝日岳の採集記録及び考察は, 富山県昆虫研究会編(1979)富山県の昆虫・目録p.334. による。後立山連峰における本種の北限は, 富山県(2002)レッドデータブックとやまp.122. によれば雪倉岳である。新潟県における本種の古い報告は, 採集地点が「白馬・白馬岳・三国境」となっており, 新潟県内かどうか記述に不明な点がある。福田(1969)蝶と蛾20(1・2)p.60-61. は, 三国境から小蓮華山間の新潟県側で得られたものを新潟県新記録種として報告した。新潟県内の生息地は全域が中部山岳国立公園特別保護地区に指定されている
VU	タ,テ	-	ヒカゲチョウ	村岡・山寺(笹神村)	弥彦山(弥彦村), 銀山平(奥只見), 笹ヶ峰(妙高高原町), 蓮華温泉(糸魚川市)	青山(新潟市), 芝原峠・松手山・浅貝・三国峠(湯沢町)	妙高高原町では1941年が初記録で, 1960~1970年代には多く採集されたが, その後の採集報告はほとんどない。新潟市の産地では1953年に採集されたが, その後宅地化され衰退した	減少した原因の推定は難しいが, 各種開発による環境悪化によるものと思われる	新潟市の産地では, 佐藤・斎藤(1954)越昆(29/30)p.32-33. によれば当時から個体数は稀, と報告されている。湯沢町の本種は, 樋熊(2002)越昆(87)p.12, p.86-87. により絶滅種と推定された。新潟県内における最も新しい記録は, 片桐(2002)笹神村史資料5自然p.280, p.292. の報告である
VU	タ,テ	-	フタスジチョウ(奥只見亜種)	-	奥只見八崎・丸山(湯之谷村)	-	1955年に発見され1961年に亜種記載された。亜種の産地が局限・孤立しており, 食樹のシモツケ類から比較的容易に幼虫が得られることから, 収集家により多数採集されやすい	各種開発による食樹の減少と, 収集家による幼虫採集などが個体数の減少要因と思われる	本亜種については, 樋熊(1961)長岡市立科学博物館研究報告(2)p.20-29. 及び, 樋熊(1983)新潟のすくえた自然p.91-92. の報告に詳しい
VU	タ,テ	-	オオゴマシジミ	平ヶ岳[金山沢出会~貯木場跡](湯之谷村), 清水峠(塩沢町), 赤湯・鷹ノ巣峠(湯沢町)	和ヒョウテ[苗場山]・三国峠(湯沢町)	-	新潟県では南魚沼郡から1950年代より産地が知られている。産地が孤立しているため集中的に多数の成虫が得られやすい	個体数減少の要因は明かかでないが, 一部の産地では森林の改変が影響していると思われる	本種の幼生期に関しては, 平賀(1952・1955)新昆虫5(2)p.16-18. 新昆虫8(3)p.7-14. により, 南魚沼郡塩沢町清水峠を主な観察地として, 初めて報告された
VU	タ,テ	-	ミヤマシジミ	胎内川流域(中条町・黒川村), 信濃川流域(十日町市), 荒浜(柏崎市), 三国川流域(六日町), 姫川下流域・根知(糸魚川市)	魚野川流域(大和町・六日町・塩沢町)	笹口浜(中条町), 信濃川流域(長岡市・小千谷市・中里村・津南町), 魚野川流域(小出町)四十日(六日町), 直海浜(柿崎町)二居・三国峠・西山(湯沢町), 池の平・杉野沢・笹ヶ峰(妙高高原町)	新潟県内では古く1940年代より採集報告があり, 河川敷・堤防などに多くの個体が見られた。最近でも採集報告はあるが, 現在では限られた地区にわずかな個体群が残っているだけである	堤防の整備, 除草剤の散布, 刈り払いなどにより, 食草のコマツナギが一時的になくなり, 多くの地で発生数が減少した。一方, 放置された草地では他の植物が繁茂して食草がなくなり, 発生が見られなくなった地域もある	新潟県の本種については, 樋熊(1993)続・新潟のすくえた自然p.42-45. に詳しい。湯沢町の本種を, 樋熊(2002)越昆(87)p.10, p.60. は絶滅種と推定した。妙高山麓の本種も, 樋熊(1998)越昆(79)p.8, p.45. により絶滅種とされた

17. 新潟県 (Niigata Pref.)

作成者: 島田久隆¹⁾; 協力者: 樋熊 清治・櫻井 精・山屋 茂人

作成日付: 2002年12月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
VU	タ,テ, ニ	-	アサマシジミ	雨飾山・白高地沢・雪倉岳 (糸魚川市)	大沼原(中郷村), 田口駅付 近・杉野沢・笹ヶ峰[牧場]・金 山・裏金山・天狗原山(妙高 高原町)	三国[詳細の産地は不明] (湯沢町)	妙高高原町では1960年代より多くの産地が発見 され, 1970年代は個体数も多かった。1980年代に 入り各種開発により各産地で個体数が激減した	各種開発と生息地での食草群落の改変が, 生息 地の個体数減少に大きく関与していると思われる。 妙高高原町では食草が山菜として利用された ことも影響している	湯沢町の本種を, 樋熊(2002)越昆(87)p.10-11, p.60. は絶滅種とした
VU	タ,テ	-	ホシチャバナセセリ	麒麟山(津川町), 大江(下田 村)	奥只見(湯之谷村)黒姫山 (青海町)	-	1957年の青海町黒姫山での採集報告が初記録。 新潟県内で確認された産地は少なく, 左記の4ヶ 所。近年では1999年に下田村大江での採集報告 がある	減少した原因の推定は難しいが, 各種開発によ る環境悪化によるものと思われる	新潟県におけるもっとも最近の記録は, 桜澤 (1999)越昆(81)p.76. による南蒲原郡下田村大 江での採集報告である
NT	チ,ト, ヌ	-	ギフチョウ	情報不足	関山(妙高村), 赤倉・田口・ 池の平~杉野沢・五八木(妙 高原町)。他の県内の産 地については情報不足	三国峠(湯沢町)	新幹線, 高速道路などが新潟県で整備された 1980年代後半より, 県外の採集者が県内各地の 産地で見られるようになった。近年あいついで発 行される本種の採集マップも, 新潟県内の採集 者増加に拍車をかけている	各種開発によりカンアオイ類の自生地が減少した ことも一因と考えられる。採集地での卵の大量採 取など, 採集者のモラルも問題である	三国峠の産地については, 樋熊(2002)の報告に より, 作成者の判断で「絶滅したと考えられる産 地」に含まれた。近年, 妙高高原町には確実な採 集記録がない。橋本(1996)蝶研(121)p.8-13. の 報告によれば, 新潟県内112市町村中, 83市町 村に本種が分布しているという
NT	チ,ト	-	ベニヒカゲ	以東岳・三方境・寒江山・竜 門山・西朝日岳(朝日村), 地 神北峰(黒川村), 門内岳(黒 川村・新発田市), 北股岳・烏 帽子岳(新発田市), 大日岳 (新発田市・鹿瀬町), 荒沢 岳・平ヶ岳(湯之谷村), 駒ヶ 岳(湯之谷村), 中ノ岳(湯之 谷村・大和町・六日町), 八海 山(大和町・六日町), 兎岳・ 丹後岳・越後沢山・下津川 山・三ツ石山(六日町), 巻 機山(六日町・塩沢町), 柄沢 山・檜倉山・大鳥帽子山・清 水峠(塩沢町), 七ツ小屋山・ 蓬峠・茂倉岳・谷川岳・オジカ 沢の頭・万太郎山・仙ノ倉山・ 大源太山・白砂山・佐武流山 (湯沢町), 苗場山(津南町・ 湯沢町), 妙高山(妙高村), 火打山・焼山・裏金山(妙高 村・妙高高原町・糸魚川市), 雨飾山・朝日岳・赤男山・雪 倉山・天狗ノ庭・白馬大池・小 蓮華山(糸魚川市)	松手山~平標山, 三国山~ 三国峠(湯沢町)	-	1940年代から1970年代にかけて, 湯沢町の三国 山から三国峠にかけて多産したが, 1980年代 中頃より急激に減少した。現在知られている産地の 大部分は国立公園に含まれ, その一部は特別保 護地区に指定されている	湯沢町の三国山から三国峠にかけての発生地 は, 植生の遷移によってヒメノカリヤスなどの食 草が急速に衰退した。湯沢町の松手山から平標 山にかけての産地は, 手軽に行けることもあつ て, 近年採集者による個体数の減少が大きい。 近年, 登山者の著しい増加により生息環境が悪 化していることも問題である	新潟県における低標高の採集記録は, 押木 (1988)越昆(65)p.30. によれば, 湯之谷村銀山 平(中荒沢)[標高860m]である。近年, 新潟県 内のベニヒカゲについて, 各山域における生態と 地理的変異の報告が続いている。飯豊連峰では 中谷(1987)蝶研(10)p.25-31, 蝶研(17)p.6-15, 越後三山では中谷(1990)蝶研(48)p.16-22, 蝶 研(52)p.8-14, 朝日連峰では中谷(1992)蝶研 (81)p.18-25, 中谷(1993)蝶研(89)p.14-20, 蝶 研(90)p.12-18, 妙高山系では中谷・北川 (1997)蝶研(136)p.4-8, 蝶研(137)p.6-13. の ほか, 長岡(2001)Butterflies(29)p.34-39. の火 打山と, 長岡(2002)Butterflies(32)p.27-33. による 雨飾山の報文がある
NT	チ,ト	-	クモマベニヒカゲ	朝日岳・赤男山・雪倉岳・鉢ヶ 岳・白馬大池~小蓮華山(糸 魚川市)	雨飾山・天狗ノ庭(糸魚川市)	妙高山(妙高村), 火打山(妙 高村・妙高高原町・糸魚川 市)	新潟県内から近年の採集記録はない。妙高山と 火打山は1951年に, 雨飾山は1968年の採集報告 があるのみ	糸魚川市の天狗ノ庭では, 森林への植生遷移に より, 生息に適した草原が少なくなり減少した。ま た, 近年の登山者の著しい増加により, 生息環境 が悪化していると思われる	樋熊(1998)越昆(79)p.10, p.65. は火打山の記 録を, 考察により絶滅種とした。白馬連山の生息 地はほぼ全域が中部山岳国立公園の特別保護 地区に指定されている
NT	チ,ト	-	コジャノメ	-	桑川(山北町), 麒麟山(津川 町・鹿瀬町), 実川(鹿瀬 町), 小滝川流域・平岩(糸魚 川市), 大河内(相川町)	三国街道[旧道]・二居(湯沢 町)	1940年代より新潟県内各地で採集報告がある が, いずれの産地でも得られた個体数は多くない	確認記録が少なく減少の原因推定は難しいが, 各種開発による環境悪化によるものと思われる	湯沢町では, 樋熊(2002)越昆(87)p.13, p.87. に より絶滅種と推定された。佐渡島の記録は, 神原 (1992)蝶研(80)p.12-13. による
NT	チ,ト	-	コヒョウモン	金山沢出合~貯木場跡(湯 之谷村), 雨飾山・アヤマ平・ 平馬平(糸魚川市)	銀山平(湯之谷村), 二居・元 橋・浅貝・河内沢・北ノイリ沢・ 三国峠・三国山・土樽蓬沢 (湯沢町), 杉野沢橋・関川・ 池の平・笹ヶ峰(妙高高原町)	-	採集記録の多い湯沢町と妙高高原町では1950年 代から1970年代にかけて採集記録が多いが, 1980年代に入り極端に減少した	妙高高原町では, スキ・場などの各種開発によ り個体数が減少したものとと思われる	湯沢町では, 樋熊(2002)越昆(87)p.17, p.73. に より減少種にとされた。妙高山麓では, 樋熊 (1998)越昆(79)p.15-16, p.55-56. により絶滅危 惧種とされた
NT	チ,ト	-	オオミスジ	-	大割野・大赤沢(津南町), 舞 子大原・鎌倉沢(塩沢町), 笹ヶ峰・池の平・蔵々(妙高高 原町)	中条(十日町市), 三俣・貝 掛・二居・元橋・浅貝(湯沢 町)	湯沢町では1940年代から1950年代にかけて採集 記録が多いが, 1965年の報告を最後としてその 後記録がない。妙高高原町では1970年代に採集 記録が幾つかあるが, 近年はまったく得られてい ない	本種の食樹はウ・アンス・モモ・ズミなどであり, 人家周辺が主要な生息環境である。その食樹が 栽培されなくなったり, 駆除の対象となったりし て, 個体数が減少したものとと思われる	湯沢町では, 樋熊(2002)越昆(87)p.11-12, p.78. により絶滅種に推定された。妙高山麓で は, 樋熊(1998)越昆(79)p.16, p.60-61. により 絶滅危惧種とされた
NT	チ,ト	-	ホシミスジ	下条ダム(加茂市), 結東(津 南町)	清津峡(中里村), 鹿飛橋・浅 貝・三国街道(湯沢町), 大久 保・太谷(妙高村), 赤倉・ 笹ヶ峰(妙高高原町)	秋葉山(新津市), 月岡・大崎 山・道心坂(三条市), 鹿峠 (下田村)	三条市と下田村では1950年代から1960年代に かけての採集記録が多いが, 1985年を最後とし て最近の報告はまったくない。湯沢町では古く 1930年代より記録があるが採集例は少なく, 1966 年以降報告が無かったが, 2001年に採集された	新潟県では局所的に多産していたが, 食樹シモ ツケ類の生育する環境が開発されたため, 個体 数が減少したものとと思われる	湯沢町では, 樋熊(2002)越昆(87)p.18, p.79. に より減少種とされた。妙高山麓では, 樋熊(1998) 越昆(79)p.16, p.61. により絶滅危惧種とされた。 最近報告された加茂市と津南町の産地は, 桜沢 (2001)越昆(85)p.26. による
NT	チ,ト	-	フタスジチョウ(中部地方亜 種)	銀岳・雨飾山・明星山(糸魚 川市)	赤倉・笹ヶ峰(妙高高原町)	鹿峠(下田村), 平岩(糸魚川 市)	1943年に糸魚川市平岩で, 1950年に下田村鹿峠 で, 1959年には妙高高原町赤倉で報告された が, その後これらの地域で再記録はない。糸魚川 市銀岳・雨飾山・明星山の産地では, 近年でも少 ないながら採集されている	下田村ではおそら(開発により, 生息環境が失わ れたものと思われる	妙高山麓では, 樋熊(1998)越昆(79)p.16-17, p.61. により絶滅危惧種とされた。現在の知見で は, 新潟県で本亜種が確実に見られるのは, 糸 魚川市の山岳地で, 食樹シモツケ類が自生して いる場所に限られる

17. 新潟県 (Niigata Pref.)

作成者: 島田久隆¹⁾; 協力者: 樋熊 清治・櫻井 精・山屋 茂人

作成日付: 2002年12月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考 (対策・文献など)
NT	チ,ト	-	エルタテハ	笹ヶ峰(妙高高原町)	見玉(津南町), 清水・清水峠・岩機山(塩沢町), 二居・元橋・浅貝・三国峠(湯沢町)	栖吉(長岡市), 山谷(十日町市)	長岡市栖吉に記録のある本種は, 1925年に報告されて以来, その後同地からは採集記録がまったくない。湯沢町での本種は1930年代から記録があり, 1980年代まで採集報告は見られるが, 近年は数を減じている	湯沢町(三国街道)の産地では, 道路が改修整備され, 交通量が増加するにつれて個体数が減少した	湯沢町では, 樋熊(2002)越昆(87)p.18, p.80.により減少種とされた
NT	チ,ト	-	オオムラサキ	村岡・出湯(笹神村), 飯塚・枅形山(越路町), 顕聖寺(浦川原村), 多能貯水池(三和村), 宮口・山口・沖見・平方・平山・岩山・高尾・棚広(牧村), 上蝦池・東川(松之山町), 中ノ俣・儀明・塩谷・桑島・春日山(上越市)	長嶺・道心坂(三条市), 鹿峠・森町(下田村), 城山・上来伝・栄町鳩峰(栃尾市), 掛之下(塩沢町), 白田切川合流点・蔵々・太田切川の崖(妙高高原町), 金北山(両津市), 新保川(金井町), 青野峠(相川町・佐和田町), 黒滝山(新穂村)	貝掛・三国街道(湯沢町)	新潟県では古く1925年頃より本種の報告があり, 広く各地から採集記録が見られたが, 近年は多くの産地で個体数が著しく減少した。佐渡島では1957年の報告以来幾つかの産地が記録されているが, いずれの場所でも個体数は少ない	食樹エノキを切り倒しての宅地造成やゴルフ場開発などの影響が, 本種の減少に大きく影響している	環境庁(1980)日本の重要な昆虫類甲虫越版p.38.には, 新潟県内で23ヶ所の産地が記録されているが, 現在各産地の状況は情報不足のため不明である。本種は, 県内各地で近年刊行された市町村史自然編で紹介されることが多く, これらの産地を「安定して発生している産地」として掲載した。湯沢町では, 樋熊(2002)越昆(87)p.12, p.82.により絶滅種に推定された
NT	チ,ト	-	ウラゴマダラシジミ	情報不足	浅貝・北ノイリ沢・河内沢(湯沢町), 池の平・笹ヶ峰(妙高高原町)	-	湯沢町では1950年代から1980年代前半にかけて連続的に採集記録があるが, 1988年以降の調査では数個体が採集されただけである。妙高高原町では1970年代は多数の個体が採集されたが, 1990年代の調査では少数の個体が得られたのみである	各種開発により食樹イボクが伐採され, 生息環境が悪化し減少したと思われる	湯沢町の本種は, 樋熊(2002)越昆(87)p.16, p.53.が減少種とした。妙高山麓の本種は, 樋熊(1998)越昆(79)p.14, p.39-40.により絶滅危惧種とされた
NT	チ,ト, ヌ	-	ヒサマツミドリシジミ	情報不足	虫川(糸魚川市), 市振～上路(青海町)	-	1977年に新潟・富山県境の稜線2480m付近で1ヶ所が採集されて以来, 新潟県では1978年に青海町で発見され, 現在は姫川の西岸まで生息が確認されている。成虫の採集報告は少なく, 食樹ウラジロガシからの採卵により分布地が確認されている。しかし, 産卵されている食樹が多くないこともあり, 数本のウラジロガシから集中的に卵が採取される傾向にある	ウラジロガシの新芽に産み付けられた卵が収集家により頻りに採取されたことが, 短期間に個体数を減少させた原因と思われる	現在まで知られる本種の北限産地は, 藤岡(1981)改訂増補日本産蝶類大図鑑解説編p.108.による姫川西岸の糸魚川市虫川と思われる。新潟県において食樹ウラジロガシの分布は, 植物同好しねんじよ会(1980)新潟県植物分布図集第1集p.29-31.によれば, 海岸部を中心に県北まで生育し, 佐渡島にも見られる。長田(1985)採集と飼育47(12)p.531.が指摘したように, 糸魚川市よりさらに北の地域で今後発見が期待される。また, 佐渡島においても三上(1991)蝶研(58)p.22.榎原(1992)蝶研(80)p.12-14.らが予想したように, 発見される可能性がある
NT	チ,ト	-	ヒメシジミ	倉谷沢・小久蔵沢(上川村), 吉ヶ平(下田村), 銀山平・八崎・鷹ノ巣・平ヶ岳[金山沢出会～貯木場跡](湯之谷村), 登川上流域(塩沢町), 八木沢・二居・元橋・浅貝(湯沢町), 大赤沢(津南町), 池の平・杉野沢・笹ヶ峰(妙高高原町), 蓮華温泉・白高地沢(糸魚川市)	-	-	1995年の糸魚川市姫川流域における集中豪雨は産地を衰退させた。白高地沢(糸魚川市)はアサマシジミと本種の多産地で, 近年特に多くの収集家が入るようになり採集量も大きい	道路改修など各種開発行為により減少した	横倉(1987)東北の自然(25)p.9-11, (26)p.10-13.が報告した, 山形県小国町徳綱付近とその周辺に分布するアサヒ型ヒメシジミは, 同報文によれば新潟県側にもプロットされているが, 現在まで県内における詳しい報告はない
NT	チ,ト	-	ギンイチモンジセセリ	小木ノ城(出雲崎町・三島町), 荒浜(柏崎市), 陸上自衛隊閉山演習場(中郷村・妙高村), 池の平(妙高高原町)	山本(小千谷市), 逆巻(津南町), 八木沢・二居・元橋・浅貝(湯沢町)	-	新潟県内の左記の産地では, 1950年代から1990年代まで各地で採集記録が多いが, 最近の採集報告はあまりない	開発などで食草であるススキなどの生育する草場が失われると, 本種の生息に対する影響が大きい	妙高山麓の記録は, 樋熊(1998)越昆(79)p.27-28.に詳しく報告されている
NT	チ,ト	-	ホソバセセリ	間瀬・間瀬峠(岩室村)	十二峠・市之越(中里村), 三国峠(湯沢町)	臥牛山(村上市)	新潟県の本種は, 古く1925年に中里村十二峠, 1943年に同村市之越, 1965年に村上市臥牛山よりそれぞれ1例の報告だけであったが, 1983年に岩室村で本種の定着地が報告された	幼虫はススキを食草としており, 生息環境の悪化が影響しやすい	臥牛山(村上市)は日本海側における北限の記録地であるが, 近年の採集報告をまったく聞かないので「絶滅したと考えられる産地」に含まれた。文献記録は, 佐藤(1965)新潟県生物教育研究会誌(2)p.73.である。岩室村の本種の報告は, 新潟県(1983)新潟のすばらしい自然・p.73-74.による
NT	チ,ト	-	スジグロチャバネセセリ	-	池の平・笹ヶ峰(妙高高原町)	三国街道(湯沢町)	三国街道では1952年の記録のみ。妙高山麓では1960年から1980年にかけて少数の採集記録があるのみ	確認記録が少なく減少の原因推定は難しい。本種は樹林の混在する草原を主な生息地としており, 植生遷移により森林化が進み, 草原環境が少なくなったことが減少の一因と思われる	湯沢町では, 樋熊(2002)越昆(87)p.9, p.42.により絶滅種と推定された。妙高山麓では, 樋熊(1998)越昆(79)p.12, p.31.により絶滅危惧種とされた
NT	チ,ト	-	ヘリグロチャバネセセリ	八田蟹(上川村), 馬追沢・粟ヶ岳牛ヶ背・高城山(下田村), 清津峡(中里村), 貝掛・二居・浅貝・三国峠(湯沢町)	池の平・笹ヶ峰・池ノ峰(妙高高原町)	-	湯沢町では1950年代から1970年代には採集記録が多い。1988年の調査では少数が得られたにすぎない。妙高高原町では1956年が最初の記録で, その後1960年から1970年代にかけては採集報告が多いが, 1990年以降は記録が少ない	前種と同じく本種も, 樹林の混在する草原を主な生息地としており, 植生遷移により森林化が進み, 草原環境が少なくなったことが減少の一因と思われる。妙高高原町などでは, 各種開発行為などにより生息環境の悪化も考えられる	妙高山麓の本種は, 樋熊(1998)越昆(79)p.12-13, p.31.により絶滅危惧種とされた
LP	-	-	ウラナミジャノメ	-	姫川流域(糸魚川市)	-	1963年頃, 姫川流域で採集報告があるのみ	不明	新潟県における記録は, 伊利・杉本(1965)採集と飼育27(3)p.100-103.による。本種を新潟県(2002)レッドデータブックにいがたp.203.では, ランクを「地域個体群」にし, 環境庁カテゴリ - では「絶滅危惧類」とした

1) 〒951-8066 新潟県新潟市東堀前通2-358

付記

今回のレッドリストにおける種の選別は「レッドデータブックにいがた(2002)」に掲載されたチョウ類全種を対象とした

レッドリストにおける種のランクは「レッドデータブックにいがた」にしたがった

[絶滅(EX), 絶滅危惧類(EN), 絶滅危惧類(VU), 準絶滅危惧種(NT), 地域個体群(LP)]

「レッドデータブックにいがた」には掲載されていないオオイチモンジは今回の調査票に加えた

調査票の「前回ランク」は「日本産蝶類の衰退と保護第2集」(1993年)を指すが, 第2集に新潟県の資料は掲載されていないので空欄とする